

訪問看護出前講座・同行研修について（報告）

1 実施概要

医療機関名	種別	日程、協力訪問看護事業所	参加人数
浩生会スズキ病院	出前	10月14日 桜台訪問看護ステーション、ジャパンケア中村橋、サンスロープ訪問看護ステーション	29名
	同行	10月17日、20日、22日、23日、24日、27日、28日 桜台訪問看護ステーション、ジャパンケア中村橋、サンスロープ訪問看護ステーション	7名
島村記念病院	出前	10月9日 恵光訪問看護ステーション	19名
	同行	10月14日、21日、28日、11月4日、11日 あすなろ訪問看護ステーション	5名
練馬光が丘病院	出前	10月21日 光が丘訪問看護ステーション、城北訪問看護ステーション、訪問看護ステーションつくしんぼ城北公園	44名
順天堂大学 練馬病院	出前	10月30日 恵光訪問看護ステーション	16名

2 アンケート結果

(1) 受講者アンケート

① アンケート回収率

76.9%（83名／参加人数 108名）

② 理解度

○ 講座の理解度

1 よく理解できた	34人	41.0%
2 理解できた	49人	59.0%
3 理解できなかった	0人	0.0%

○ 理解が深まった点

1 訪問看護をはじめとした在宅療養に関する知識が深まった	37人	24.7%
2 訪問看護をはじめとした在宅療養の必要性・重要性を理解できた	49人	32.7%
3 訪問看護をはじめとした在宅療養に関わる多職種と連携を図る必要があると感じた	56人	37.3%
4 その他	8人	5.3%

○ 同行研修実施による理解度の変化

1 講座以上に理解が深まった	12人	100.0%
2 講座のみで十分だった	0人	0.0%

③ 満足度

○ 出前講座の満足度

1 非常に満足	11人	13.6%
2 満足	63人	77.8%
3 やや不満足	7人	8.6%
4 不満足	0人	0.0%

○ 同行研修の満足度

1 非常に満足	2人	16.7%
2 満足	9人	75.0%
3 やや不満足	1人	8.3%
4 不満足	0人	0.0%

④ 受講者の意識・行動の変化等

○ 講座等が役に立ったと感じることの有無

1 よくある	11人	14.1%
2 たまにある	19人	24.4%
3 まだわからない	48人	61.5%

(「1」を選んだ理由)

- ・ 継続したケアが行えるよう看護サマリーの記入の仕方が変わった。必要時退院カンファレンスを行うことの重要性を改めて感じることができている。
- ・ 外来に来る高齢者や障害者に対してバックグラウンドを把握する努力をしている。本人や家族に積極的にかかわるようになった。

(「2」を選んだ理由)

- ・ 看護の継続の大切さを知り、自宅に帰った後の生活をより深く考えるようになった。
- ・ 在宅看護をすすめる時、どのような看護をしてくれるか簡単にではあるが説明できる。

○ 訪問看護や在宅療養に対する認識の変化の有無

1 あった	56人	73.7%
2 なかった	20人	26.3%

(「1」を選んだ理由)

- ・ 知らないことが多く、他の機関との連携の重要性を知ることができた。
- ・ 必要な治療・対応ができるため、病院にいてもらいたいとも思っていたが、やはり患者の意向が第一なので、その人にとっての個別性を踏まえ、チームで介入できればと思った。
- ・ 在宅に帰る患者について、訪問看護やケアマネジャーと情報交換するようになった。
- ・ 退院後の療養についても意識して関わるようになった。
- ・ 患者さんや家族の気持ちを考え、訪問看護介入に関して伝えられるようになった。

⑤ 事業効果等

○ 病院スタッフと訪問看護の連携の円滑化に対する本事業の効果の有無

1 とても思う	15人	19.0%
2 思う	59人	74.7%
3 あまり思わない	5人	6.3%
4 思わない	0人	0.0%

(「1」または「2」を選んだ理由)

- ・ 訪問看護師や医師が現場で感じていることや実際の事例を知ること、入院中から在宅へ円滑に移行するために行うべきことが見えてくる。
- ・ 「顔」が見えることは大切。相手を思いやりながら連携ができる。
- ・ 研修を通してお互いのスタッフが関わりを持つことで、お互いの認識が深まり、連携しやすくなると思う。
- ・ スタッフの訪問看護に関する意識が変わったと思うから。

(「3」を選んだ理由)

- ・ 病院内で訪問につなげる流れがよくわからなかったから。

○ 継続実施希望の有無

1 希望する	53人	66.3%
2 内容を変更したら希望する	21人	26.3%
3 希望しない	6人	7.5%

⑥ その他（意見等）

- ・ 病院側に対し求めることを話してほしい。
- ・ 同行研修の枠をもう少し多くしてはどうか。
- ・ 病棟の様子など病院の実際について訪問看護師に理解してもらえるとより良いと思った。
- ・ 地域に訪問看護ステーションがどのくらいあって、どのような受入体制なのかかわからないので、社会資源の情報が一元化されるといいと思う。
- ・ 地域包括支援センターごとや、合同でのカンファレンス（症例検討会）などあるといい。

(2) 病院研修担当者アンケート

① 講座等の実施のねらい（病院として）

1 患者の在宅移行後のイメージを院内スタッフが持ち、今後の退院調整等に当たること	3件	30.0%
2 訪問看護ステーションとの連携強化のきっかけとすること	2件	20.0%
3 在宅の現場でどのようなことが行われているのかについて理解を深めること	4件	40.0%
4 その他	1件	10.0%

※ 講座等の実施によるねらい（目的）達成の可否

1 できた	2件	50.0%
2 できなかった	0件	0.0%
3 まだわからない	2件	50.0%

② 満足度

1 非常に満足	1件	20.0%
2 満足	3件	60.0%
3 やや不満足	1件	20.0%
4 不満足	0件	0.0%

※ 出前講座を「3 やや不満足」、同行研修を「2 満足」と評価した病院がある。

(「1」または「2」を選んだ理由)

- ・ 地域の情報や、患者の退院後の話をうかがうことは大切なことだと思うため。
- ・ まだ結果に結びついていないが、研修に参加した者の意識は高まっており、今後の退院支援につなげていけると確信が持てる状況であるため。

(「3」を選んだ理由)

- ・ 受け身研修はその時の感想で終わってしまうことが多い。

③ 受講者の意識・行動の変化等

○ 院内スタッフの意識・行動の変化の有無

1 あった	0件	0.0%
2 なかった	1件	25.0%
3 まだわからない	3件	75.0%

④ 事業効果等

○ 同行研修の効果の有無（出前講座のみとくらべて）

1 とても思う	1件	50.0%
2 思う	1件	50.0%
3 あまり思わない	0件	0.0%
4 思わない	0件	0.0%
5 わからない	0件	0.0%

○ 病院スタッフと訪問看護の連携の円滑化に対する本事業の効果の有無

1 効果がある	1件	25.0%
2 一部効果がある	3件	75.0%
3 あまり効果はない	0件	0.0%
4 効果はない	0件	0.0%

(「1」を選んだ理由)

- ・ この研修により在宅へ向けた退院支援のイメージの幅が広がるので、情報の共有などやりやすくなると思われる。

(「2」を選んだ理由)

- ・ 訪問看護業務をあまり知らない職員にとっては効果的だと思うが、ある程度知っている人には物足りなかったかもしれない。
- ・ 直接的な連携の機会が得られるか不明。

○ 継続実施希望の有無

1 希望する	2件	50.0%
2 内容を変更したら希望する	2件	50.0%
3 希望しない	0件	0.0%

⑤ その他（意見等）

- ・（病院スタッフと在宅スタッフとの連携を円滑にするために）情報共有のための定期カンファレンスのようなことができると良い。

(3) 講師アンケート

① 事業効果等

○ 講座等実施病院との連携の変化の有無

1 あった	1人	12.5%
2 なかった	2人	25.0%
3 まだわからない	5人	62.5%

○ 病院スタッフと訪問看護の連携の円滑化に対する本事業の効果の有無

1 効果がある	6人	75.0%
2 一部効果がある	1人	12.5%
3 あまり効果はない	1人	12.5%
4 効果はない	0人	0.0%

○ 継続実施希望の有無

1 希望する	7人	100.0%
2 内容を変更したら希望する	0人	0.0%
3 希望しない	0人	0.0%

○ （継続実施した場合の）協力の可否

1 協力する	4人	50.0%
2 条件が合えば協力する	4人	50.0%
3 協力しない	0人	0.0%

② その他（意見等）

- ・ 区内の全ての訪問看護ステーションの管理者が講義できるくらい数を重ねられると、顔の見える関係づくりができるのではと考える。
- ・ ①病院の医師・看護師・相談員・薬剤師から訪問看護へ向けた講座や、②在宅医（かかりつけ、在宅支援診療所）・地域の薬局の薬剤師から病院の医師・看護師へ向けた講座で相互理解を深めるとよいと思います。

3 考察

以下のことから、「区内病院のスタッフが訪問看護をはじめとした在宅療養について理解を深め、退院調整をはじめとした在宅スタッフとの連携をより円滑なものとする」という本事業の所期の目的は、おおむね達成することができたと考える。

- 本事業の実施により訪問看護への理解の促進を図ることができた。
- 満足度も高く（約9割）、本講座の内容が、受講者のニーズに即したものであったことが推察される。
- 講座開催後約1か月間の業務中に、講座が役に立ったと感じる受講生はあまりいなかったが、訪問看護や在宅療養に対する認識に変化があったと感じる受講生は約7割いる。
- 一部に行動の変化を感じている受講生がいるが、客観的な視点から（病院研修担当者）はその変化を感じるまでには至っていない。
- 本講座が病院スタッフと訪問看護の連携の円滑化につながると思っている受講生が9割以上いる。また、病院研修担当者の全員、訪問看護師のほとんどが円滑化につながると思っている。ただし、今回の取組の結果、両者の連携について具体的な変化があったとまでは言えない。
- 本講座の継続実施については、受講生の9割以上、病院研修担当者と訪問看護師の全員が肯定的な回答をしている。
また、継続実施した場合、すべての訪問看護師が本講座への協力について肯定的な回答をしている。

【今後に向けて】

- 上記のように、本事業に対しては肯定的な評価が多い一方、病院スタッフの行動変容や、病院スタッフと訪問看護の連携の変化というところには至っていない。そのため、このような機会を継続して設けることが重要であると考えます。
- 今回の出前講座・同行研修は高い評価を得ることができたが、受講者の意見の中には困難事例や失敗した事例を知りたいという意見や、意見交換・情報共有の場を求める意見等があった。今後継続して事業を実施する場合は、上記のことを踏まえて企画する必要がある。